

CHAO LETTER

ジャパ・ベトナム報告 No.6

チャレンジ 2023! 困難を乗り越えて!

発行者: ジャパ・ベトナム事務局 発行日: 2022年11月28日

ベトナムは自立/日本は支援協力

安藤 勇

今までジャパ・ベトナムは年一回ベトナムツアーを行ってきました。それは、プログラムが行われている現場へ足を延ばして、責任者や関係者に会って、自分の目で状況を確認する必要があるからです。同時に、私たちは恩人の会員に、集まっている支援金はどう使われたのかを報告しています。ところが、COVID パンデミックのせいで、2年間ツアーを止めなければいけませんでした。

コロナの行方がまだはっきりしていなかった中で、ジャパ・ベトナムのスタッフ5人は8月末にベトナムを訪れました。今回、5か所を訪問して、多くの人たちに出会うことができました。ここには一緒にベトナムツアーに参加したスタッフ5人からの報告を載せています。

ジャパ・ベトナムは1994年から6年間にわたり、PHAN THIET 農村地方で活動を行いましたが、今回私はその大切なプロジェクトの成果に大変興味をもち、そこも訪ねてきました。28年前の話ですが、Tan Tao 農村を初めて訪れたジャパ・ベトナムのチームは教会の村人リーダーたちから100人以上の子供たちに奨学金の支援を頼まれました。私たちにとっては無理な依頼だったので、何か違ったプロジェクトの提案を求めたところで、村が貧しいので、牛を飼うことも望んでいると話されました。結局、計画の構想を練るために、教会が中心に特別な委員会をつくり、「牛銀行」の詳しい組織を作りました。彼ら自身が農家の名簿を貧しい順からリストを作って私たちに渡しました。それを元にジャパ・ベトナムはリストのトップの貧しい10家族一つ一つに一頭の若い牛を提供しました。しばらく立つと村の牛が増え、村全体がきれいに変わり、子供たちを楽に学校に行かせるための奨学金ファンドも積み上がるようになりました。今回の訪問は22年振りでしたが、Tan Tao 村であった5人には、当時の『牛銀行』のリストを見せたところで、一番貧しい家族の代表の名前を見て、「これが俺の家のお父さんの名前だ」と大喜びで叫んだ。今その農家は20頭の牛を飼うようになっています。村人が独自に自立して、そのプロジェクトを成功させたことは私たちの喜びでした。



ジャパ・ベトナムツアー2022 報告

五井 邦宏

今回、3年ぶりにジャパ・ベトナムの支援先を訪問して、責任者にプロジェクトの現状などについてヒアリングした。ツアーは安藤神父他4名の日本側スタッフとジャパ・ベトナムHCM支部のサポートにより、支援先との会合/訪問、それから新たな活動の調査を行った。ベトナムは総じてマスクの着用は少なく、HCM市内は、観光客らしき旅行者は少なくいくらかは静かなようだった。各訪問先と活動状況調査(カッコ内)を示す。会議: トウイ・グループリーダーとの会合(HIV/AIDSの子供へ継続支援)。バングループ(ソーシャルワーカー教育等)、スマイルのミンフォンさんとの会合(コロナの影響を受け支援を停止)。訪問: 南部は、難民の村タドウトとその支援修道会事務所(教育援助で継続支援の予定)、少数民族の子供支援の寮(生活・教育支援)、ベンチェの小学校(浄水器設置施設が順調に稼働しているかの状況確認)、日本の支援で設立された外科手術施設(新規な支援の形式を認識)、地域ベンチャー/防虫線香の製造販売/工業ロボット製造(ホーチミングループのとの連携)、ホーチミン日本商工会議所(小学生日系企業見学プログラムの提案・議論)、ダイハイ/カマウ/コーチャン(自転車、奨学金)、ファンティエット(牛銀行のその後状況視察)。北部は、バクニン(奨学金)。訪問とその後のスタッフ会議を経て、本年の7つの支援プロジェクトと支援金額を決定し、HCM支部経由で支援先の銀行口座への送金を終了した。





ロンティエン子供たち 2022-08-23



Thuy プロジェクト見学 2022-08-23



IOCH ホーチミン事務所 2022-08-26



バクニン/カリタス 2022-08-30



Bac Ninh 食卓 2022-08-30



Bac Ninh 教会コスマBishop 2022-08-29



チイ神父/ダット神父 2022-09-01



HOI フルーフタ協会 2022-08-23

特に印象的だったタドウ村への訪問について詳しく述べる。この村については、今までにチャオレーターで報告したが、カンボジアで生活していたベトナム人が帰還し、国境に近い湖の周辺に生活する貧しい集落である。今回初めての現地訪問で HCM 市から車で片道約4時間、途中子供たちの支援プロジェクトを行ってきた、ブラザー・バオさんたちのメンバーが共同生活する家に立ち寄り、仲間たちと一緒に村へ向かった。それほど離れていない2つの集落を訪ねたが、一つの集落は、茶色の土の道路は整備されていて、質素なつくりで細かく区分けされた長屋風の住宅が数棟まとまって並ぶ。(この集落は、近くの寺院の支援があったとのこと)。もう1ヶ所は、ドウティエン湖畔にあり、湖水面より少し高い道路から水際にかけての低湿地にある。丸木の木組みの柱に、木材で床や梁を組み厚手のゴムや布で屋根を覆ったごく粗末な高床式の住居群が並ぶ。上水設備はあると聞く。若い家族が多く、各家には小さな子供たちが多くみられた。また、住居のすぐ近くの水辺には十数せきのエンジン付きの小舟が並んでいた。生計は主として漁業。訪問日の天候は良かったが、漁に出ている様子は見られなかった。(現在、当所での支援プロジェクトの進行が遅れており、2022年のジャパ・ベトナムの支援は見送ることとなった。)



Br.Baoさんと仲間たち 2022-08-24



タドウ村 2022-08-24



ツアーに参加して“都会と田舎と起業精神” 平井 裕

3年ぶりにジャパ・ベトナムツアーでホーチミンとその周辺の支援先を中心に回ることが出来た。コロナの影響はここかしこに見られたが、ベトナム人は明るく快活で、以前に負けない活力を持っていた。しかし支援している、子供達の教育、HIV/AIDS 対策、生活環境改善やはり大きな課題であることは変わらない。貧富の差の拡大は、他のアジアの国々との比較ではまだ大きくないとはいえ、ホーチミンの街の発展と地方の生活レベルを比較すると、大きな差がある。今回のコロナで、日々の糧のない人、仕事を失った人、ビジネスが行き詰まった人が大変多かった。マーケットの状況も大きく変わってしまった。ホーチミンに人口が集中していることで経済が支えられているが、一旦それが崩れると、何に頼れば良いのかわからなくなっている。生活できなくなった人は、田舎に帰ってしまい、生産工場などの活動が低下する。観光客が減って、ホテルが閉鎖になり、外出禁止令による、人の移動ができなくなったことで、経済だけでなく教育に対する影響も大きかったようだ。

仕事が無いことが都市での生活を苦しめているが、一方で田舎は食物が作れば生活はできるということから救われている。都会での仕事に関して、ベトナム人はとてもアグレッシブで色々なビジネスに挑戦する。ベトナムのインフラは急速に改善されつつあり、ホーチミンの大学がそのよい例で、数年前に比較して洗面・トイレの設備が良くなっている。一方で地方の学校は飲料水が不足していることに対して、浄水器を援助した我々；以外も関心があり、援助も行っているが、下水・汚水処理も含めてまだまだ不十分である。医療の関係は、コロナの時に、病院が不足して、十分な治療が受けられなくなっていた。支援先であった、HIV/AIDSのクリニックも閉鎖になったが、熱心なボランティアが依然として積極的にその問題に取り組んでいる活動があり、これからも支援を続ける。

ベトナムは、人口の50%以上が農民で、国・大学・研究機関が重点的に農業技術を支援しているも、あまり成果が見えていない。資源が豊富であるから、それを付加価値のある製品にまで仕立てることができれば、利益はでて豊かになる可能性は大きい。製品化の過程で、生産技術の開発が重要であり、また原材料のデリバリーの不足も大きい。

ベトナム人の新しいことに挑戦する姿勢は日本を凌駕するものがあり、総じてベンチャー精神が旺盛で起業も多いがうまくいくケースが少ない。先の将来を見通した計画を立てて進める教育が必要かと思う。今回、地方で、ローカルな植物を活用した、蚊取り線香づくりの会社に出会った。プール製造会社の田舎の小学校での水泳教室経営なども含めて、ベトナムのチャレンジ精神を垣間見た。都会にでて活躍する企業人が出身校の支援をするアルムナイ事業などの可能性を探りたい。

都会の資金力を田舎につぎ込むことにより、新規なリターンを得る可能性もある。資源の豊富な田舎と知力・活力・技術力のある都会との連携で新しいビジネスを創造して、それに

より貧しさからの脱皮を目指すことが求められると思う。



久しぶりのチャリティコンサート 村山良忠

10月10日に、3年振りでチャリティコンサートを開催することができました。当日は、天候が不順であったにも関わらず、会場の岐部ホール401号室が参加者でいっぱいになりました。

冒頭にジャパベトナム代表の安藤から挨拶の後に、本年の8月末から9月初旬にかけて、これも3年振りにベトナムの支援先を訪問したツアーの報告が、五井と平井からありました。スライドを交えた報告は、コロナ後のベトナム現地の状況を会場にいらした方々に伝えることができましたと思います。

コンサートは、聖イグナチオ教会のベトナム語ミサの聖歌隊セシリアの Trống cơm (鼓) という曲の合唱からはじまりました。セシリアの演目はバラエティに富んでいました。合唱に続いて、ド・カム・リさんによる竹製のダンバウ(一弦琴)



の演奏、レ・ティ・トゥエット・ニユンさんによる創作ダンスが披露されました。後半には、レ・ドック・フィさんによるアコースティックギターの独創的演奏もありました。

いつも出演をお願いして、快くお引き受けいただいている今津葉子さんは、Cây Trúc Xanh（美しい竹）を始めとする3曲、ピアノや笛の音に合わせて繊細なダンバウの演奏を聴かせてくださいました。梨宝玉さんは、Cát bụi cuộc đời（人生の埃）を始めとする3曲を、ベトナムの様々な笛で演奏してくださいました。

今回初めて出演をお願いしたのはピアニストの村上巖さんです。村上さんは、ご自身が師事された、ショパン国際コンクールで優勝したベトナム出身の世界的ピアニストであるダン・タイ・ソンにちなんで、ショパン作曲のピアノソナタ第3番 短調作品 58 を演奏してくださいました。その迫力ある演奏は、401号室にいた全員を虜にしたと思います。

アンコールでは、2曲も演奏してください、そのうちの1曲チン・コン・ソン作曲の「美しい昔」の時には会場からも歌声が聞こえました。

3年振りのチャリティコンサートは成功裏に終わったのではないかと思います。最後をお願いするアンケートも、いつもより多くの方が出してくださいましたし、ご感想を書かれる方も多く、好評であったと感じています。ありがとうございました。これを、コロナ後の活動の出発点の一つとして、再びベトナム支援の活動の活発化を図りたいと思います。



会計報告

小野浩美

2022年4月19日～2022年11月24日 寄付者のお名前（敬称略、順不同）
 森絵理咲 佐藤みどり 守口恵子 江口一郎 湯下博之 渡辺典子 林裕美子 平林生子 岸秀雄
 グエン・ティ・ゴック グエン・ティ・マイ 青沼酉子 武市英雄 マリアの御心会茂原共同体 柏
 村忠志 圓山節子 宿澤恵子 小池美恵子 駒込直美 関口順 阿部節子 山本昌子 カトリックイ
 エズス会 イエズス会社会司牧センター 鈴木武彦 桜井孝彦 岩田瑞枝 澤田紀子 武永蘭 竹永
 賢 原茂 井阪和夫 サワダヨシヒロ アサノテツヤ Kim Ha Thanh Vu 匿名
 いつも暖かいご支援をありがとうございます。

2022年4月19日～2022年11月24日のご報告をいたします。

| | 日本(円) | ベトナム(KVND) | | 日本(円) | ベトナム(KVND) | |
|----|-------|------------|-----|-------|------------|---------|
| 収入 | 一般寄付 | 1,013,997 | 345 | 前期繰越金 | 1,535,269 | 108,470 |
| | 助成金 | 200,000 | 0 | 当期収支 | - 549,312 | 345 |
| 支出 | 支援金 | 1,750,000 | 0 | 次期繰越金 | 985,957 | 108,815 |
| | 活動費 | 15,309 | 0 | | | |

※ 助成金は高野道郎プロジェクトによるものです。

寄付金の内、コンサートでの寄付、販売 48,250 円と 345KVND が含まれています。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

2022年支援金内訳

| | | | |
|----------|-----------|-------|-----------|
| バックニン | 250,000 円 | ダイハイ | 250,000 円 |
| ロンディエン | 250,000 円 | カマウ | 250,000 円 |
| ヴァン・グループ | 250,000 円 | コーチャン | 250,000 円 |
| トワイ・グループ | 250,000 円 | | |

(ご支援先) 郵便振替 00100-8-118761 JAPA VIETNAM

銀行振込 三菱 UJF 銀行 店番号 315 普通預金 3544236

JAPA VIETNAM 代表 安藤勇

イエズス会社会司牧センター 〒102-0083 東京都千代田区麹町 6-5-1 岐部ホール 4 階

TEL.03-5215-1844 / FAX.03-5215-1845